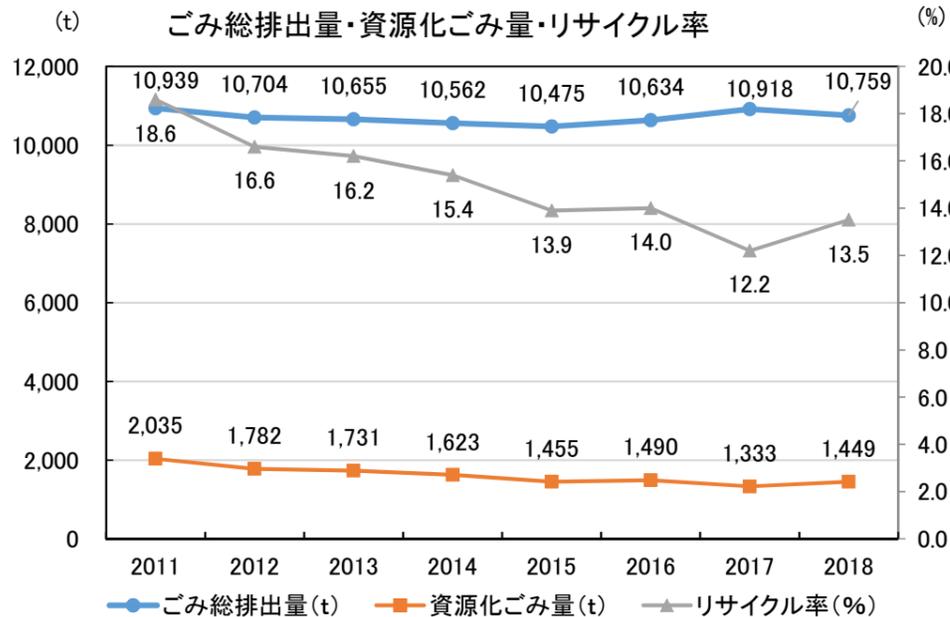


1. 廃棄物分野

(1) これまでに環境基本計画に基づいて市が取り組んできた内容

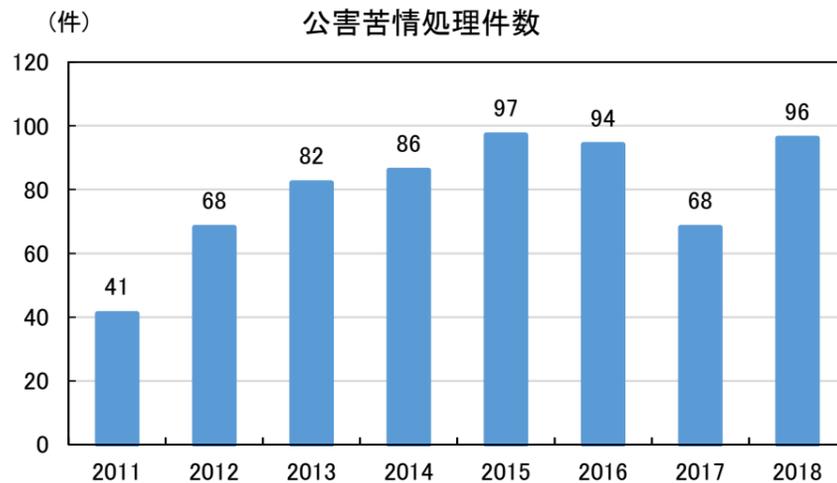
- ごみ減量・リサイクル懇談会、出前講座など啓発事業の実施
- 使用済み小型家電の常設回収BOXの設置
- 加東市リサイクルヤードを活用した資源物の収集運搬の効率化
- 再資源化意識の高揚を目的とした粗大ごみ拠点回収等、市民協働事業の実施
- 地域住民、土地管理者、警察、県、市等の連携による不法投棄の防止

① ごみ総排出量・資源化ごみ量・リサイクル率



- ごみ総排出量は、2011年以降、横ばい～微減傾向にあります。
- 一人一日当たりのごみ排出量は2011年度から2017年度までの7年連続で、県下で一番少ないまちとなっています。
- 資源化ごみ量、リサイクル率は、減少傾向にあります。要因としては、雑誌等の紙媒体を購入する人が減ったことやリサイクル業者が設置している無料回収ボックスの利用が増えていることが考えられます。

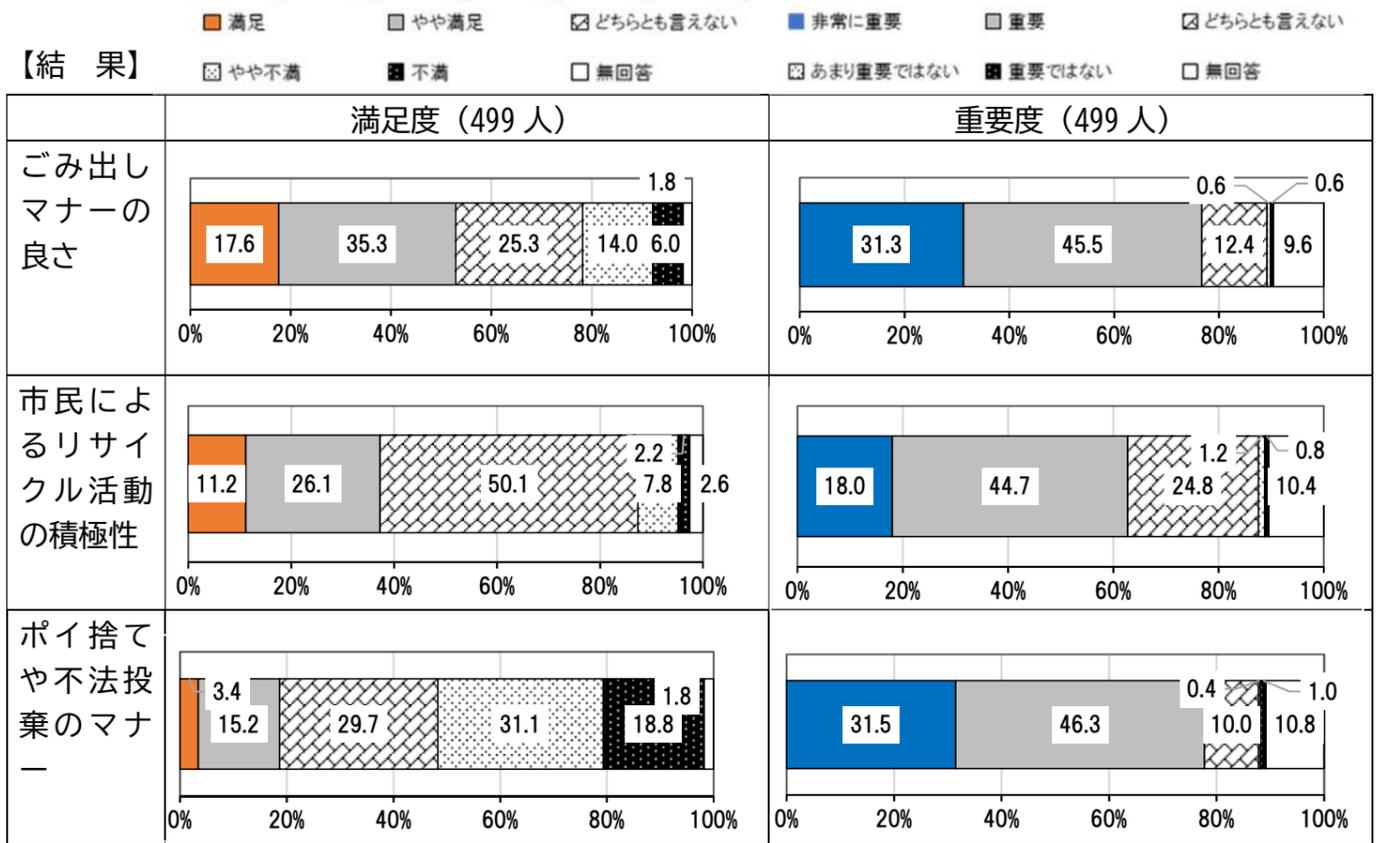
② 公害苦情処理件数



- 公害に関する苦情件数は、増加傾向にあります。2018年度の内訳をみると、不法投棄43件、土地管理16件、動物3件、騒音2件、野焼き9件、悪臭1件、ごみ屋敷2件、その他20件となっています。

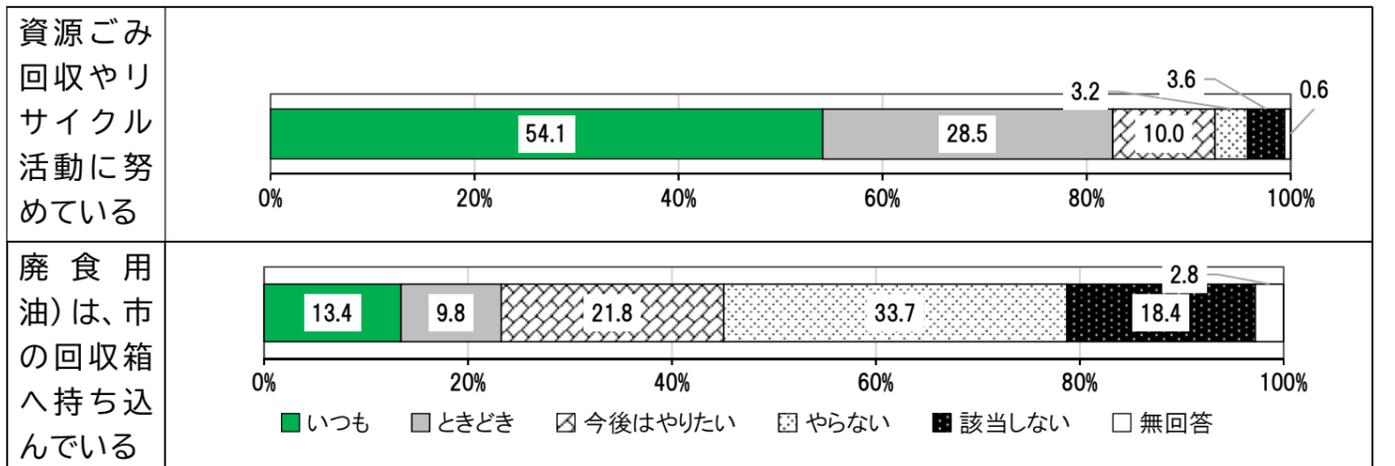
(2) 市民アンケートの結果

【設問】あなたは、現在お住まいの周辺環境についてどのように感じですか。また、将来望ましい環境にとってどの程度重要だと思いますか。項目ごとに、あなたのお考えに最も近いものの満足度、重要度それぞれ1つずつ選んで番号に○印をつけてください。



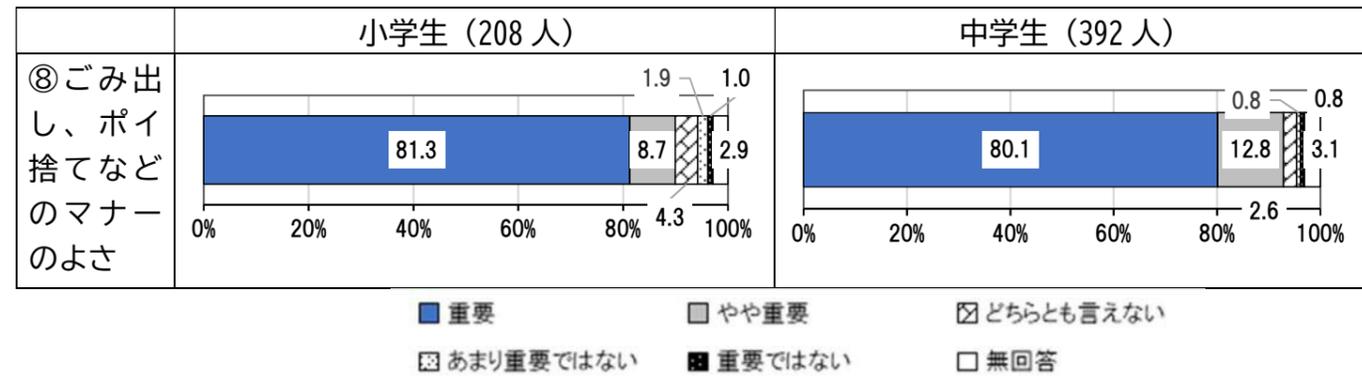
- 満足度は、「ごみ出しのマナーの良さ」が高く、「ポイ捨てや不法投棄のマナー」で低い傾向にあります。
- 重要度は、「ポイ捨てや不法投棄のマナー」で高い傾向にあります。

【設問】より良い環境のため、あなたが（あなたの家庭で）日頃から行っている、または、気をつけている取組についてそれぞれ1つずつ選んで、該当する番号に○をつけてください。



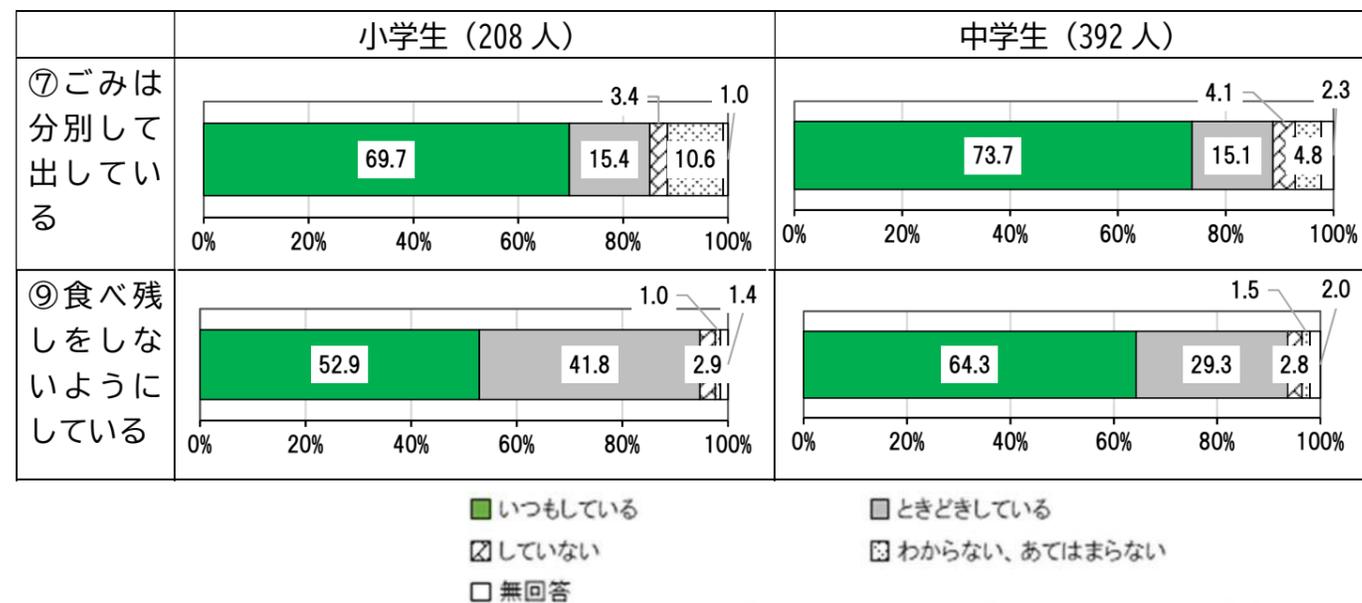
(3)小中学生アンケートの結果

【設 問】家や学校のまわりの環境について、これからどのようなことが大切だと思いますか。①～③の項目すべてについて、それぞれ1つ選んで、番号に○をつけてください。



- 「ごみ出し、ポイ捨てなどのマナーのよさ」については、小中学生の8割以上が大切と答えています。
- この割合は、「空気のきれいさ」(小学生の76.4%、中学生の83.4%)に並んで高い値となっています。

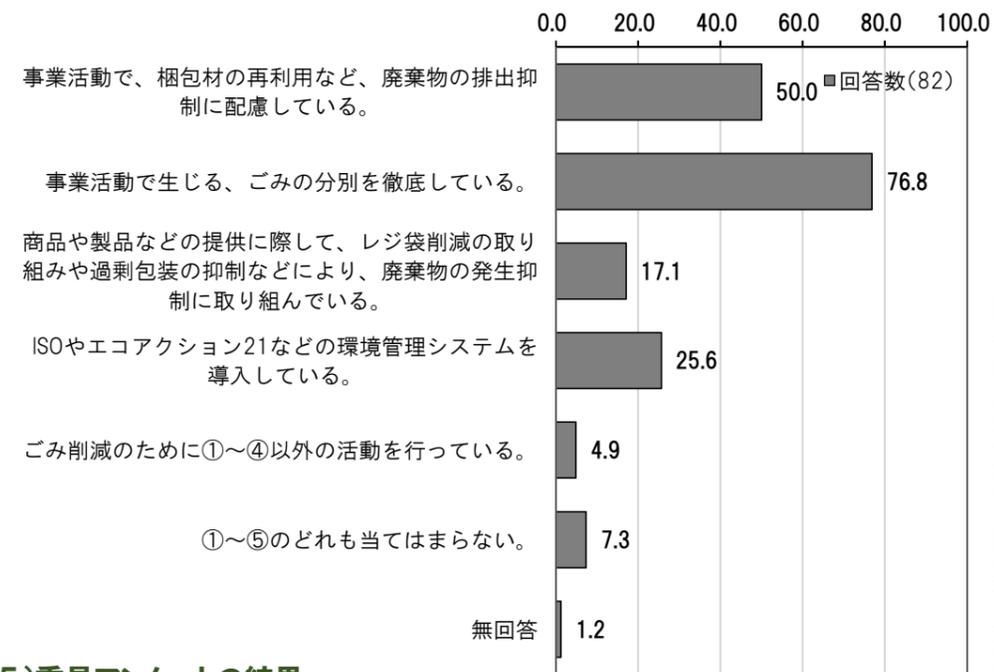
【設 問】あなたは日常生活でどんなことに取り組んでいますか。①～⑤の項目すべてについて、それぞれ1つ選んで、番号に○をつけてください。



- ごみの分別は、小学生、中学生ともに8割以上が「いつもしている」、「ときどきしている」と回答しています。

(4)事業者アンケートの結果

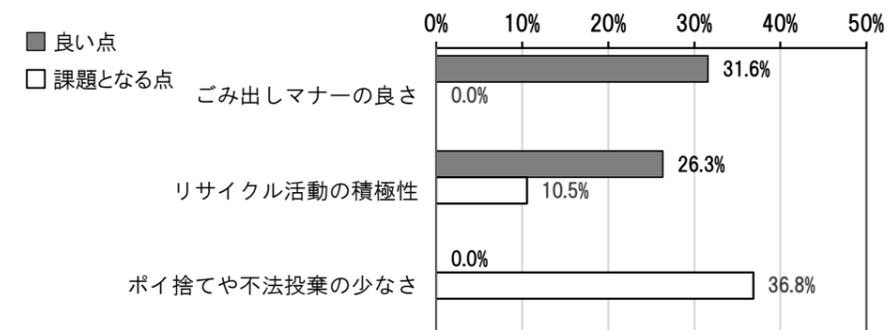
【設 問】事業活動におけるごみ問題への関わりについて、おたずねします。当てはまる番号を○で囲んでください。(複数選択可)



- 事業活動で生じるゴミの分別を徹底している企業は約8割となっています。
- 一方で廃棄物の発生抑制に取り組んでいる企業は2割以下にとどまっています。

(5)委員アンケートの結果

【設 問】加東市の環境の現状について、良い点、課題となる点は何だと思いますか(複数選択可)



- 課題となる点として、「ポイ捨てや不法投棄の少なさ」が36.8%となっています。

(6)まとめ

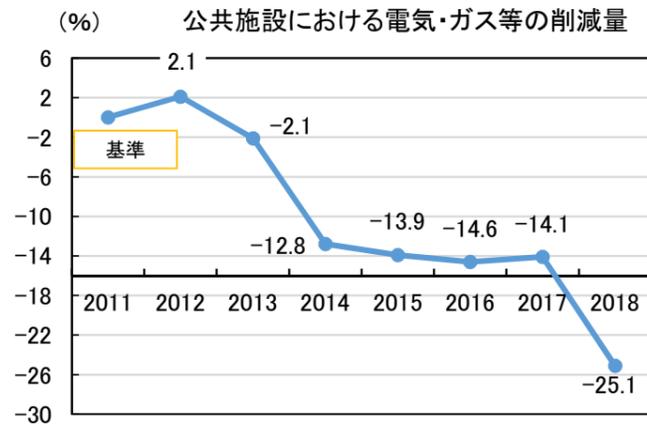
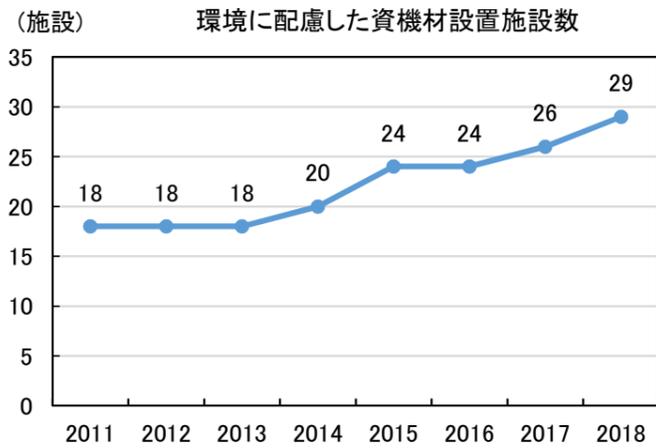
- 市の統計によると、ごみの総排出量は横ばい傾向となっています。総排出量のうち、資源ごみは減少しており、資源ごみ以外が増加しています。
- 満足度は、「ごみ出しのマナーの良さ」が高く、「ポイ捨てや不法投棄のマナー」で低い傾向にあり、重要度は、「ポイ捨てや不法投棄のマナー」で高い傾向にあります。このため、今後、「ポイ捨てや不法投棄のマナー」に対する対策が求められていると考えられます。
- アンケート結果からは、ごみ減量の取組、資源ごみのリサイクル、美化の推進では取組割合が比較的高く、小中学生にも浸透していることがわかります。一方で、廃食用油や小型家電の回収の取組は進んでいない傾向がみられました。
- 事業者では、ごみの分別は進んでいるが、梱包材の再利用などの廃棄物の排出抑制は進んでいない傾向がみられました。
- 委員アンケートでは、今後の課題や取組の指摘事項として、リサイクルできるものを交換できる場の設定といった意見がみられました。

2. 地球環境分野

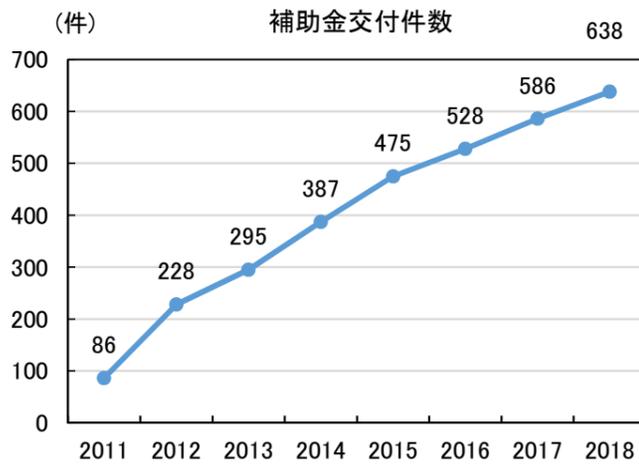
(1) これまでに環境基本計画に基づいて市が取り組んできた内容

<p>【省エネルギー・省資源化の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設における環境に配慮した資機材の導入（電子文書管理システム、電子決裁の導入等） ● 公共施設へのLED導入促進 <p>【新エネルギー導入の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設・公有地への太陽光発電設備の導入 ● 一般家庭における新エネルギー、省エネ設備の導入促進 	<p>【地球環境に配慮した交通の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公用車の電気自動車（ハイブリッド車含む）の導入・転換 ● 公用車等使用時のエコ運転 ● エコドライブの普及促進 <p>【グリーン購入等の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各種啓発事業の実施や適正な事務事業の実施 ● 広報紙等印刷物の作成、各種情報提供時の環境配慮
--	---

① 公共施設における環境に配慮した資機材設置施設数、電気・ガス等でのCO₂削減量

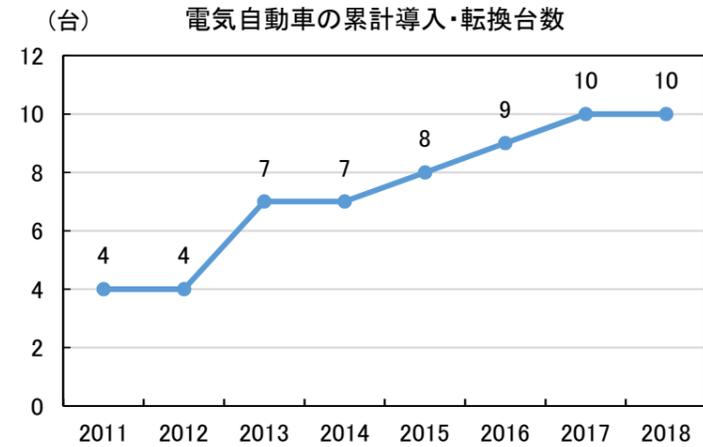


② エコハウス設備設置数



- 公共施設では環境に配慮した機器の導入が進んでいます。また、公共施設でのCO₂の発生量は2011年から25.1%減少しています。
- エコハウス設備の設置数は増加傾向にあり、2011年から補助金制度を活用して設置した設備数は638件となりました。

③ 電気自動車、ハイブリッド車の導入・転換台数



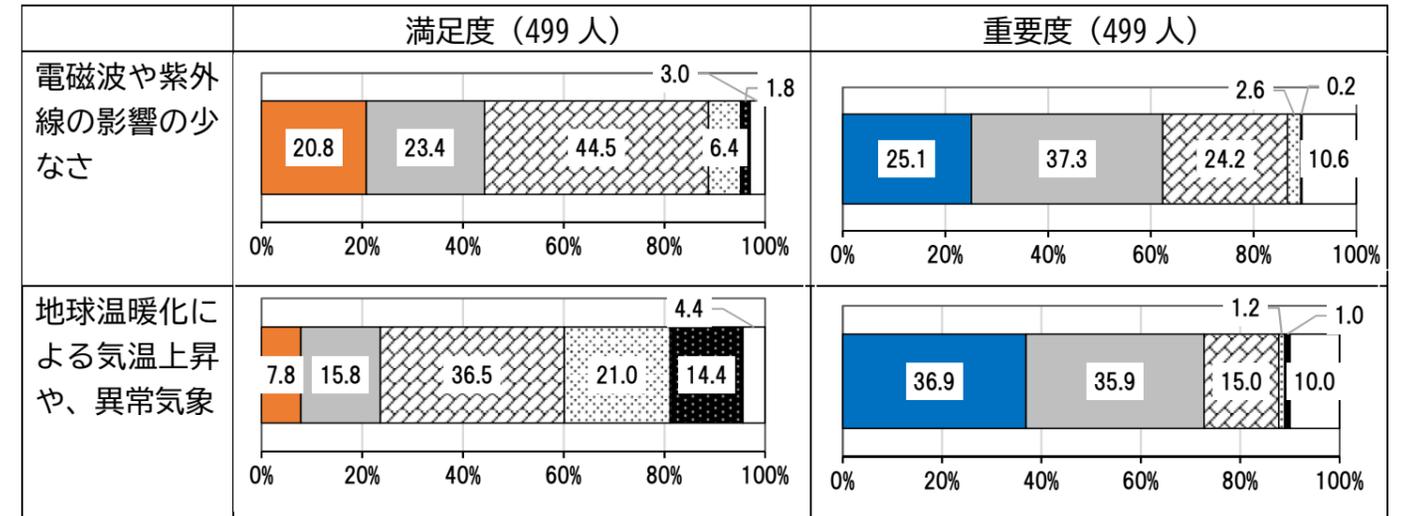
- 電気自動車（ハイブリッド車含む）は2011年の4台から10台に増加しており、それに伴ってガソリンの使用量も減少傾向にあります。

(2) 市民アンケートの結果

【設問】あなたは、現在お住まいの周辺環境についてどのように感じですか。また、将来望ましい環境にとってどの程度重要だと思いますか。項目ごとに、あなたのお考えに最も近いものの満足度、重要度それぞれ1つずつ選んで番号に○印をつけてください。

【結果】

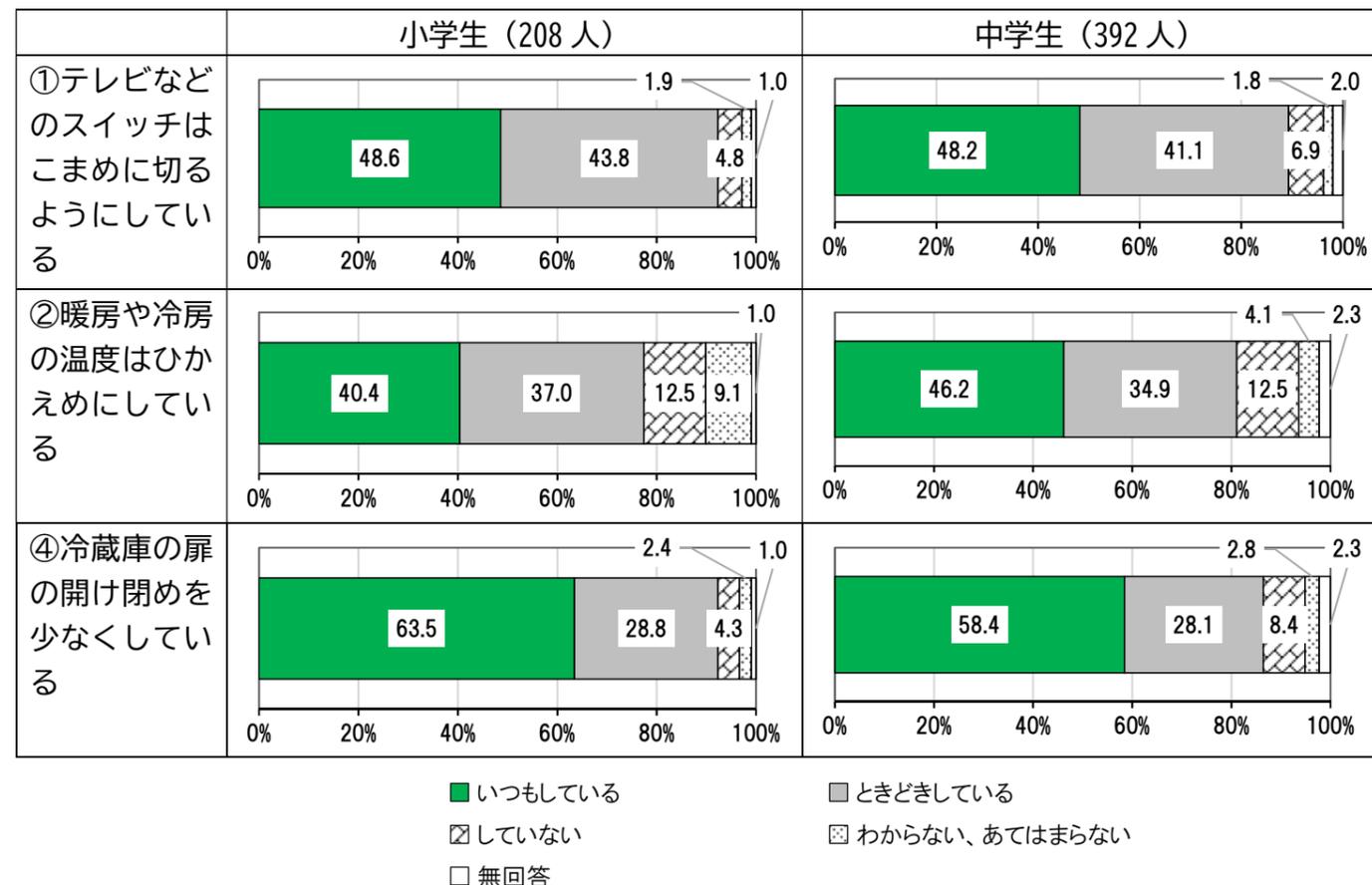
■ 満足	■ やや満足	▨ どちらとも言えない	■ 非常に重要	■ 重要	▨ どちらとも言えない
▨ やや不満	■ 不満	□ 無回答	▨ あまり重要ではない	■ 重要ではない	□ 無回答



- 満足度は、「地球温暖化による気温上昇や、異常気象」で低い傾向にあります。
- 重要度は、「電磁波や紫外線の影響の少なさ」で比較的低い傾向にあります。

(3)小中学生アンケートの結果

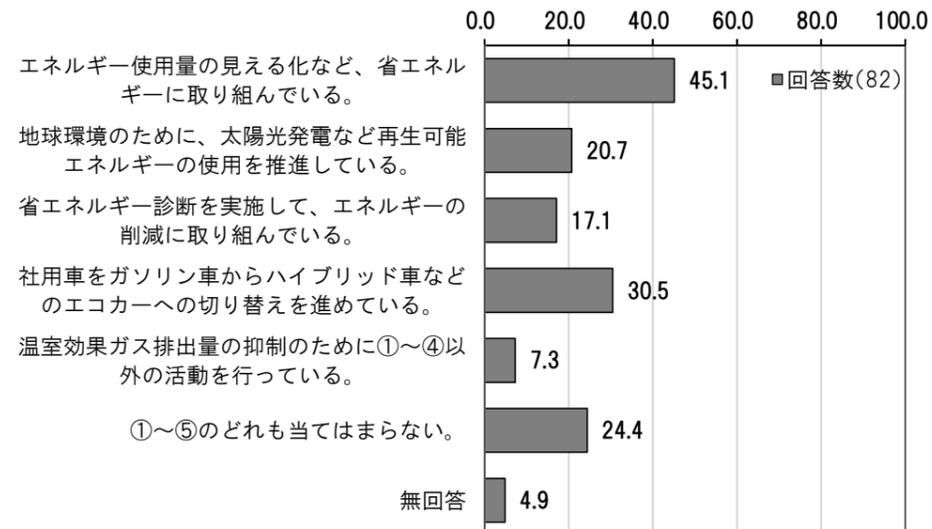
【設問】あなたは日常生活でどんなことに取り組んでいますか。①～⑤の項目すべてについて、それぞれ1つ選んで、番号に○をつけてください。



- すべての項目において、いつもしている、ときどきしているの割合が8割程度となっています。
- いつもしている割合が高いのは、小学生・中学生ともに「冷蔵庫の開け閉めを少なくしている」となっています。

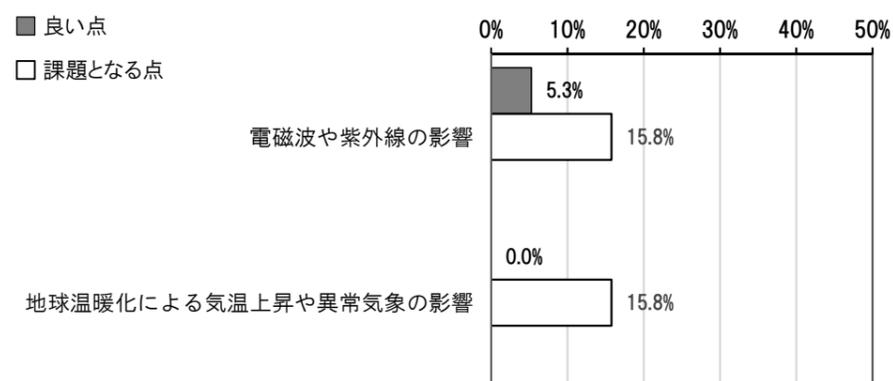
(4)事業者アンケートの結果

【設問】事業活動における地球環境問題への関わりについて、おたずねします。当てはまる番号を○で囲んでください。(複数選択可)



- エネルギー使用量の見える化など、省エネルギーに取り組んでいる企業は4割以上となっています。
- 社用車をガソリン車からエコカーへの切り替えを進めている企業は3割以上となっています。

(5)委員アンケートの結果



- 課題となる点として「電磁波や紫外線の影響」、「地球温暖化による気温上昇や異常気象の影響」がそれぞれ15.8%となっています。

(6)まとめ

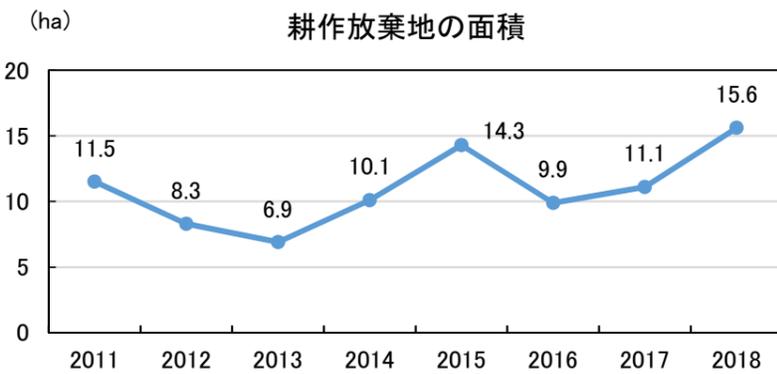
- 温暖化による気温上昇や異常気象は、重要度と比較して満足度が低くなっています。
- 委員アンケートにおいても、電磁波や紫外線の影響、地球温暖化の影響が課題であるとの指摘があります。
- 小中学生アンケートをみると、市内での省エネルギーの取組は進んでおり、小中学生にも浸透していることが伺えます。
- 事業者アンケートでは、省エネルギーやエコカーの導入などが進んでいる一方で、地球環境問題への関わりを持っていないと答える企業が2割以上あり、企業向けの啓発も重要であると考えられます。

3. 自然環境分野

(1) これまでに環境基本計画に基づいて市が取り組んできた内容

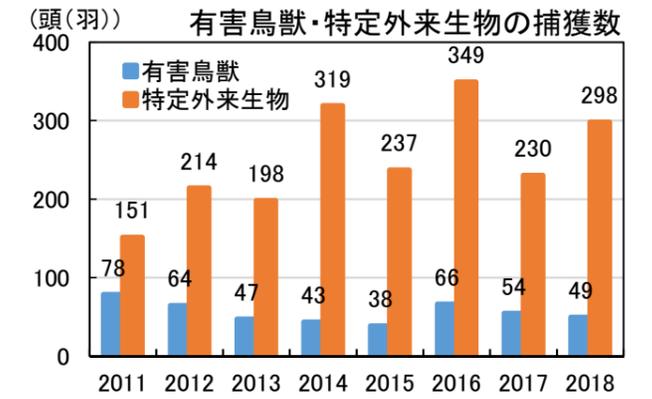
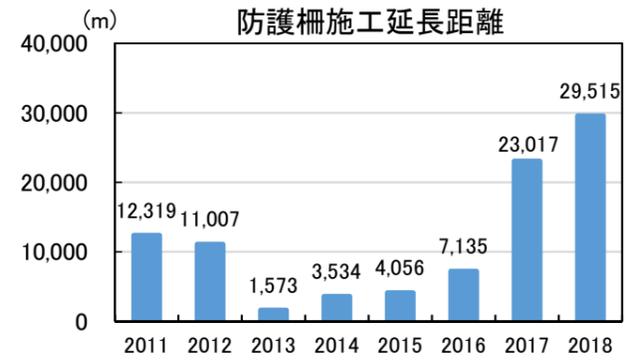
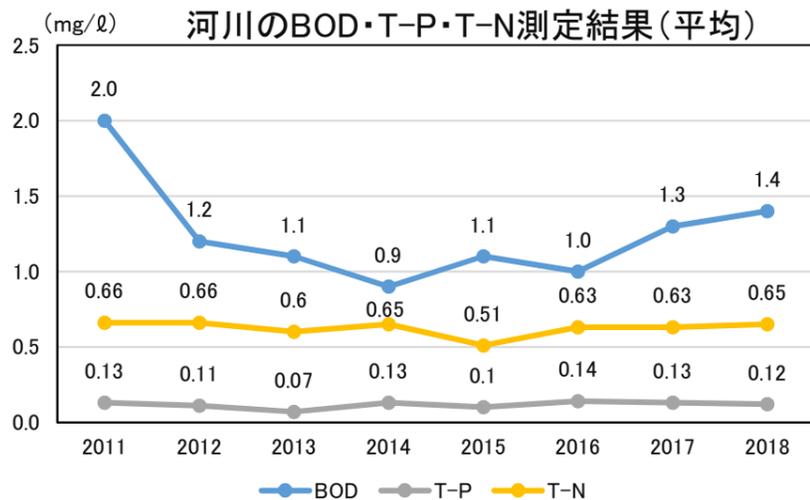
<p>【農地】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 優良農地の保全、適切な農地の管理、耕作放棄地の解消 ● 農地・水・環境保全向上対策の推進 ● 各種営農支援、農業経営の安定、農業の活性化 ● 地産地消、環境に配慮した農業の推進 <p>【森林】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 環境教育をととした森林保全 <p>【下水道、水質、水辺】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 下水道等の適正な管理、施設の充実、水質保全 ● 環境美化活動、水辺環境改善 	<p>【生物多様性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特定外来生物の駆除活動の推進 <p>【伝統文化、歴史遺産】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 伝統文化や歴史的遺産の伝承
--	--

① 耕作放棄地面積、環境に配慮した農業の実施面積



- 耕作放棄地の面積は、近年、増加傾向にあります。
- 耕作放棄地は景観上の問題や害虫の発生、鳥獣の隠れ場となり周辺農地に影響を与えることがあります。

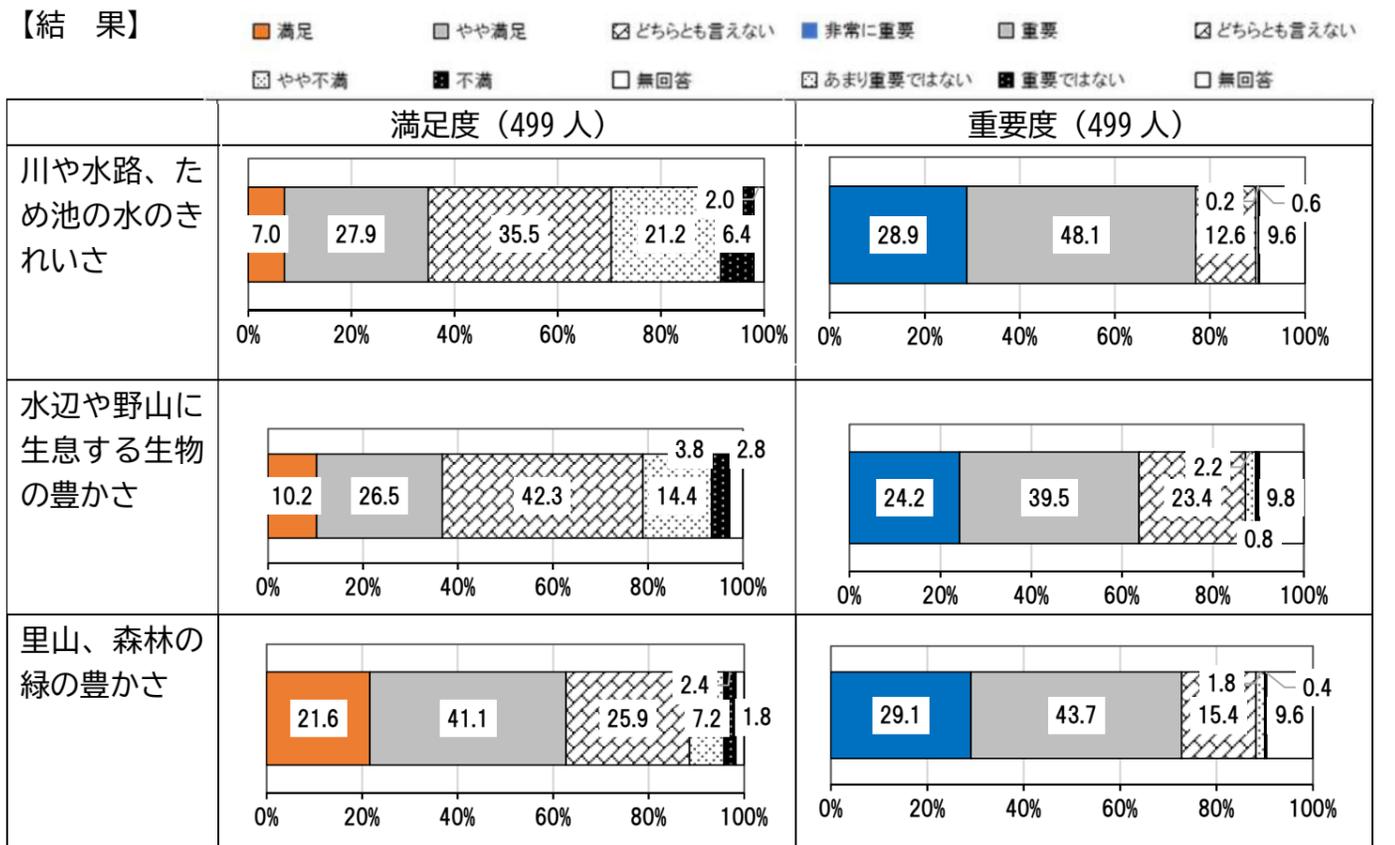
② 河川の大腸菌群数



- 獣害防止のための防護柵の整備を進めています。
- 有害鳥獣や特定外来生物の捕獲を進めています。

(2) 市民アンケートの結果

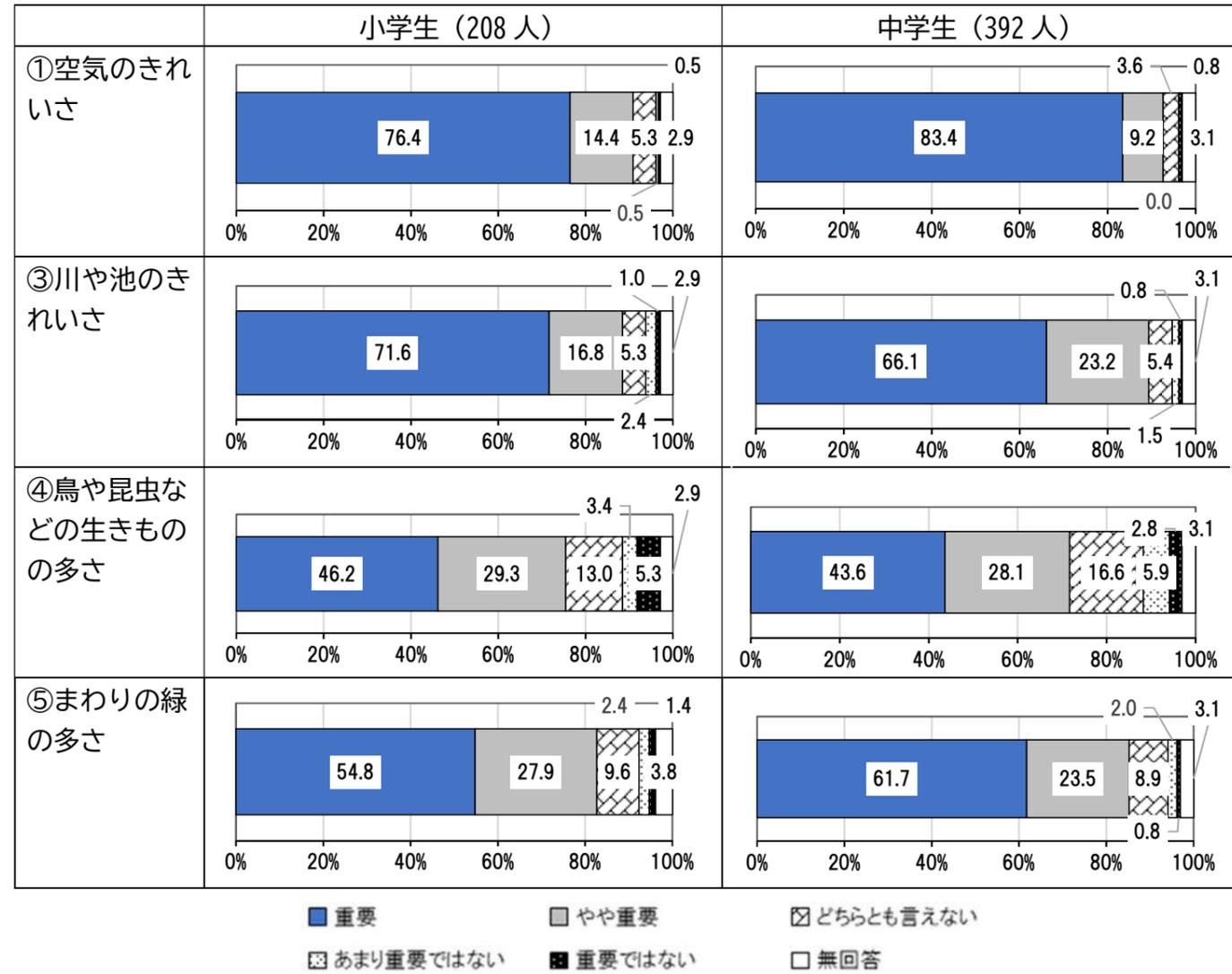
【設 問】あなたは、現在お住まいの周辺環境についてどのように感じですか。また、将来望ましい環境にとってどの程度重要だと思いますか。項目ごとに、あなたのお考えに最も近いものの満足度、重要度それぞれ1つずつ選んで番号に○印をつけてください。



- 満足度は、「里山、森林の緑の豊かさ」が高く、「川や水路、ため池の水のきれいさ」は低い傾向にあります。
- 重要度は、「水辺や野山に生息する生物の豊かさ」が低い傾向にあります。

(3)小中学生アンケートの結果

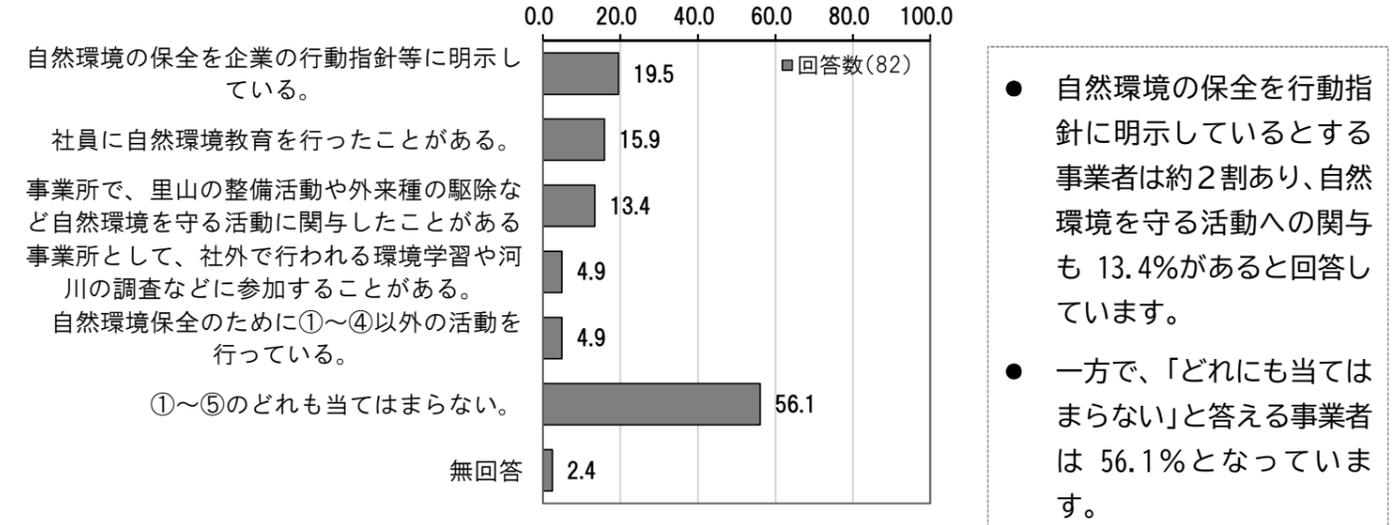
【設問】家や学校のまわりの環境について、これからどのようなことが大切だと思いますか。①～③の項目すべてについて、それぞれ1つ選んで、番号に○をつけてください。



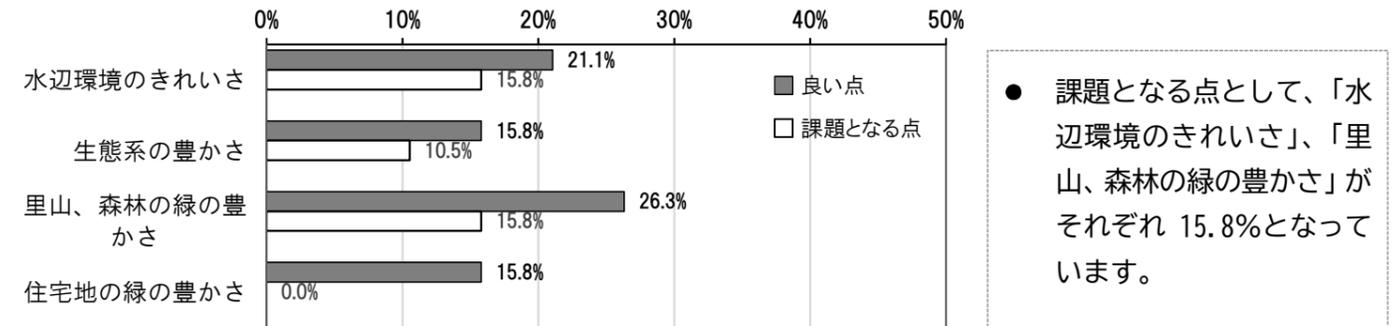
- 大切と思う項目として、小学生、中学生ともに「空気のきれいさ」、「川や池のきれいさ」、「まわりの緑の多さ」と答える割合が高い傾向にあります。
- 一方で、「鳥や昆虫などの生きものの多さ」と答える割合は比較的低くなっています。

(4)事業者アンケートの結果

【設問】事業活動における自然環境への関わりについて、おたずねします。当てはまる番号を○で囲んでください。(複数選択可)



(5)委員アンケートの結果



(6)まとめ

- 市民アンケートをみると、「川や水路、ため池の水のきれいさ」が重要と答える割合が比較的高くなっています。小学生、中学生アンケートでも、大切と思う項目として、「空気のきれいさ」、「川や池のきれいさ」、「まわりの緑の多さ」と答える割合が比較的高い傾向にあります。
- 河川の水質調査の結果をみると、河川、ため池ともに全体的にひどい汚れや異臭などは見られず、概ね安定した状況です。しかしながら、市民アンケートからうかがえる満足度は、「川や水路、ため池の水のきれいさ」は低い傾向にあります。
- 市民アンケートでは、「水辺や野山に生息する生物の豊かさ」の重要度が低い傾向にあります。小中学生アンケートでも「鳥や昆虫などの生きものの多さ」を重要と答える割合は比較的低い状況です。
- 今後、「河川の美化」、「生物多様性などに関する市民や児童生徒向けの啓発」が重要と考えられます。
- 事業活動における自然環境への関わりがないと答える企業が半数以上あり、企業向けの啓発も重要と考えられます。
- 防護柵の施工延長を延伸させているものの、鳥獣害被害は深刻です。また、耕作放棄地の増加などへの対応も課題です。

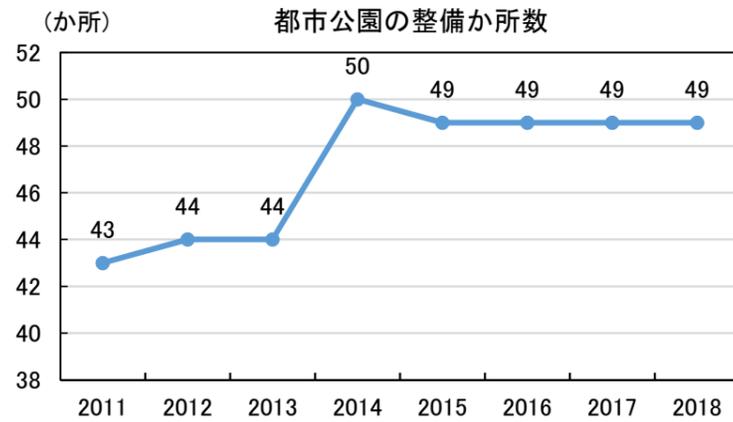
4. 生活環境分野

(1) これまでに環境基本計画に基づいて市が取り組んできた内容

【緑化、街並みづくり】

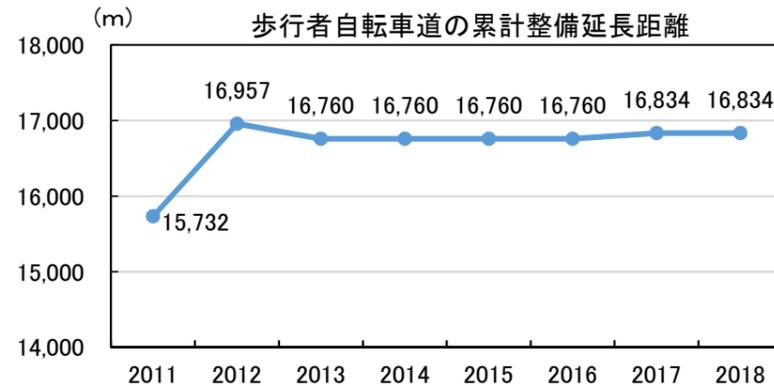
- 公共施設（公園等）の整備、緑化
 - 緑地の保全、身近な緑の保全と創造（グリーンカーテンの設置促進）
 - 各種イベント等で花苗の配布
 - 各種条例等による規制誘導
 - 各種条例等による緑化の推進
- #### 【自転車、徒歩によるまちづくり】
- 歩行者自転車道の整備延長
 - 自動車騒音常時監視（面的評価）の実施

① 都市公園の整備



● 都市公園数は、2011年度の43か所から2018年度の49か所に増加しています。2018年度の総面積は36.31haで、市民一人当たりの都市公園面積は、9.06㎡となっています。

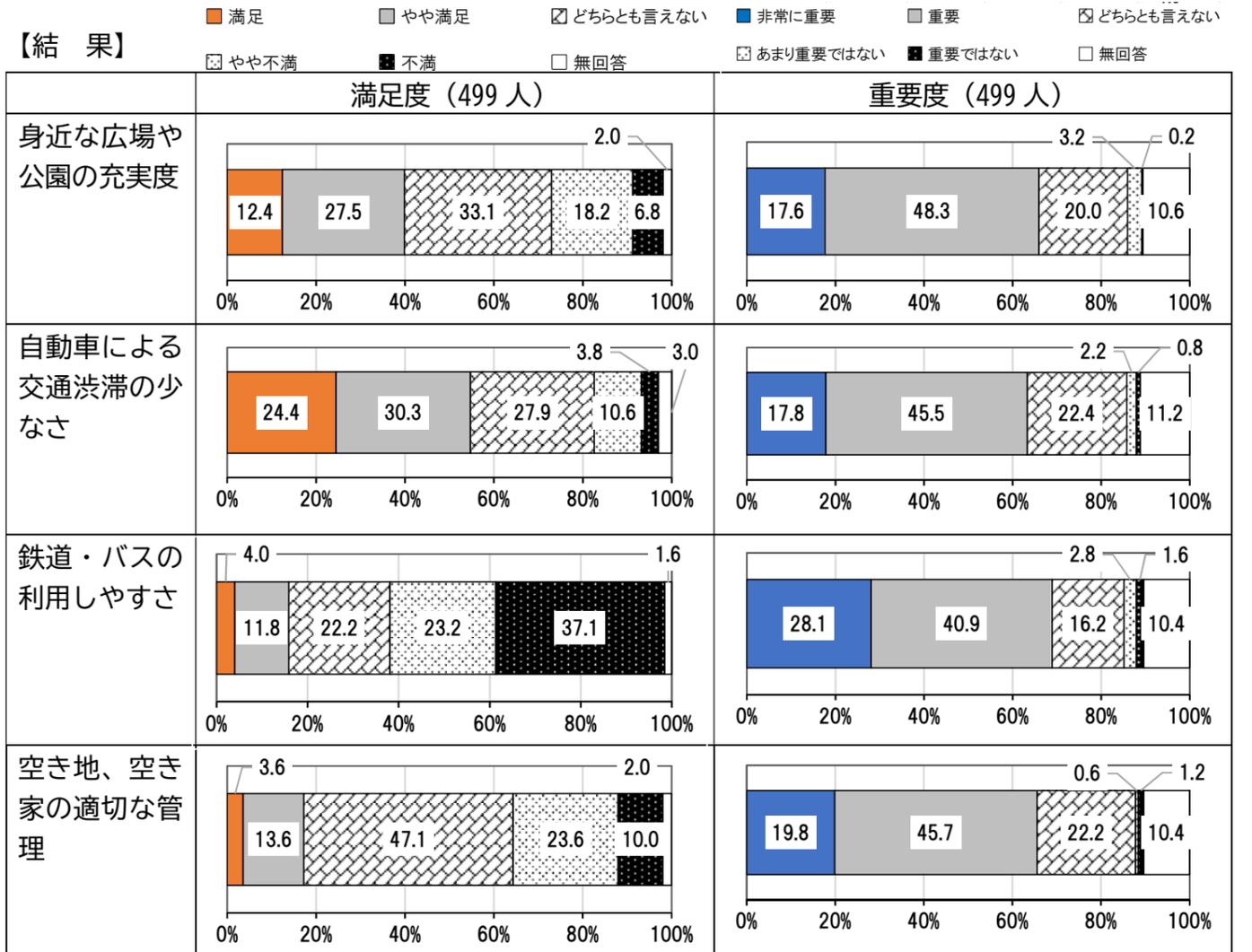
② 歩行者自転車道の整備延長



● 歩行者自転車道の整備延長は、2011年の15,732mから16,834mに延伸しています。

(2) 市民アンケートの結果

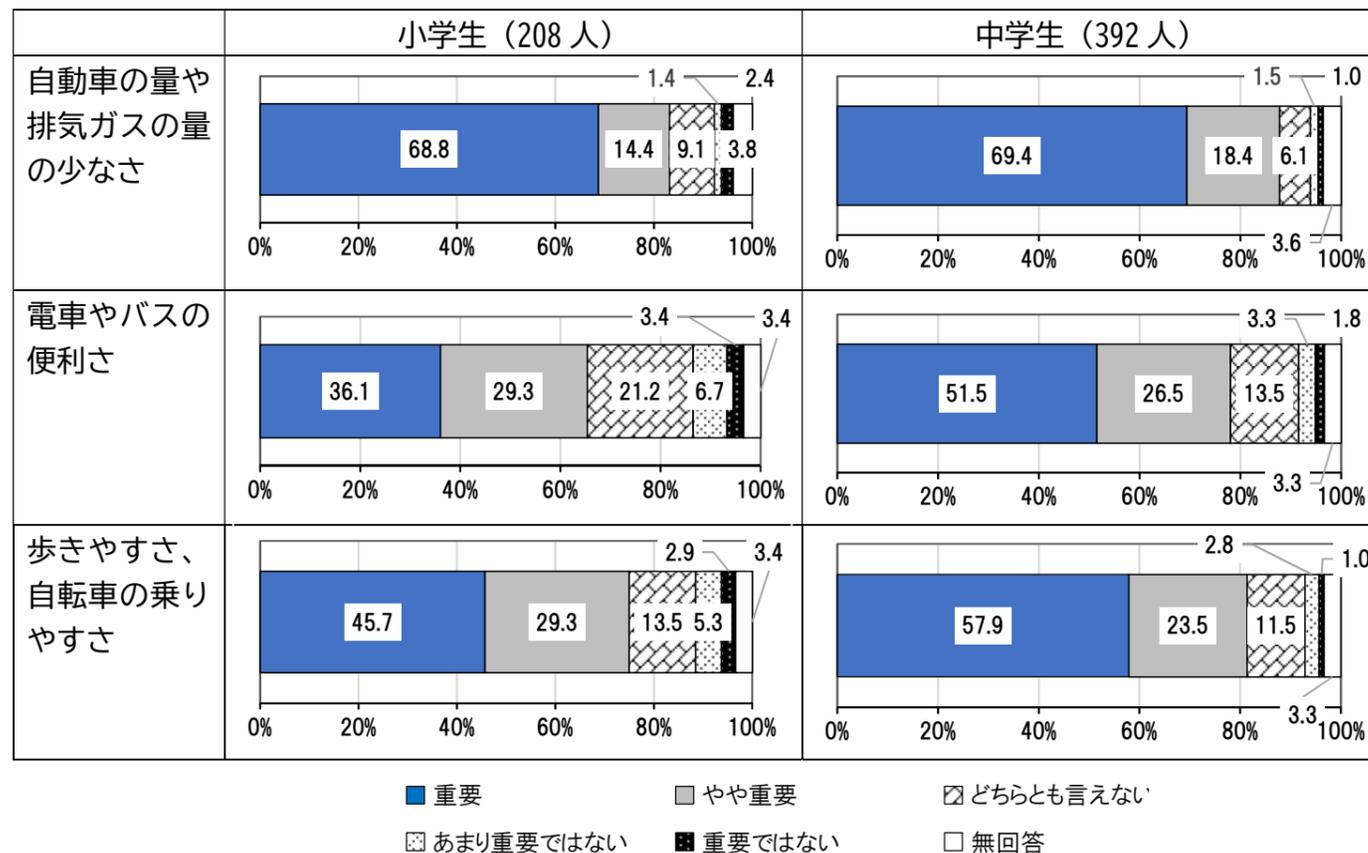
【設問】あなたは、現在お住まいの周辺環境についてどのように感じですか。また、将来望ましい環境にとってどの程度重要だと思いますか。項目ごとに、あなたのお考えに最も近いものの満足度、重要度それぞれ1つずつ選んで番号に○印をつけてください。



- 満足度は、「自動車による交通渋滞の少なさ」が高く、「鉄道、バスの利用しやすさ」で低い傾向にあります。
- 重要度は、全ての項目で高い傾向にありますが、特に「鉄道、バスの利用しやすさ」で高くなっています。

(3) 小中学生アンケートの結果

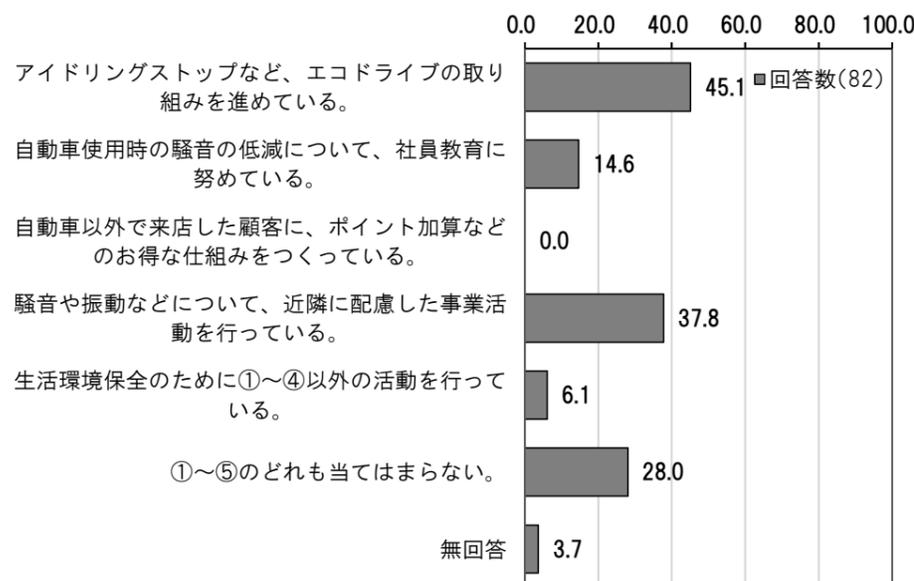
【設問】家や学校のまわりの環境について、これからどのようなことが大切だと思いますか。①～③の項目すべてについて、それぞれ1つ選んで、番号に○をつけてください。



- 「自動車の量や排気ガスの量の少なさ」が小学生・中学生ともに高い傾向にあります。
- 全ての項目について、中学生では小学生と比較して重要であると答えている割合が高い傾向にあります。

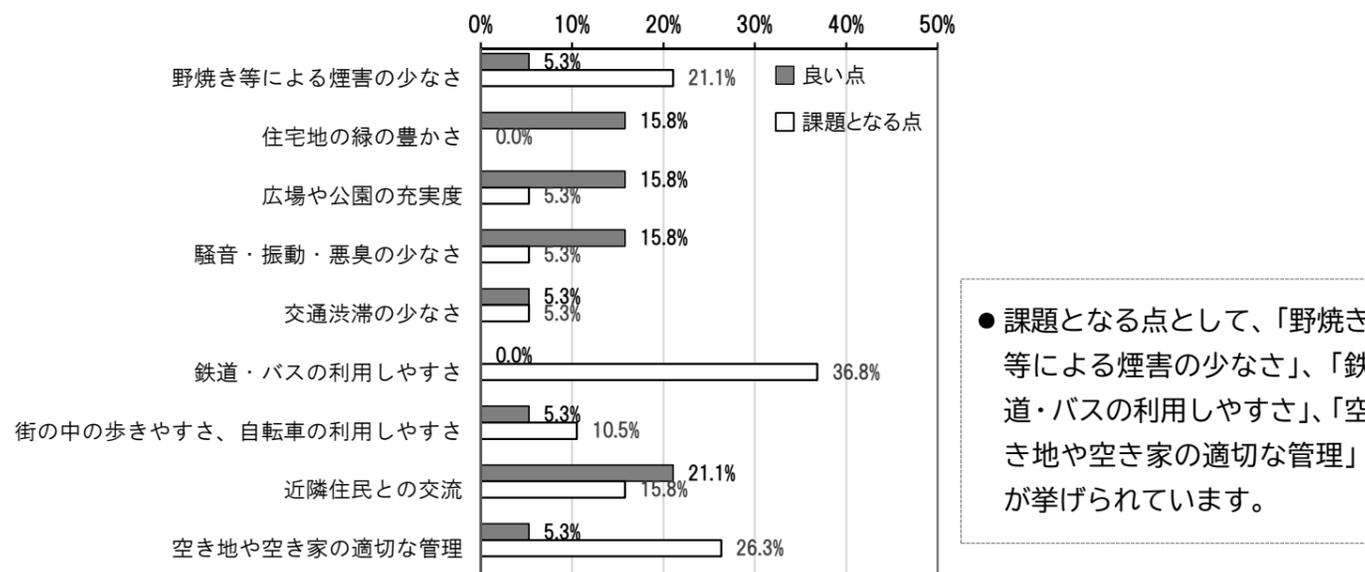
(4)事業者アンケートの結果

【設問】事業活動における生活環境（大気、騒音、振動など）への関わりについて、おたずねします。当てはまる番号を○で囲んでください。（複数選択可）



- 「アイドリングストップなど、エコドライブの取り組みを進めている」企業は4割以上となっています。
- また、「騒音や振動などについて、近隣に配慮した事業活動を行っている」企業は約4割となっています。
- 「どれも当てはまらない」と回答した企業は約3割となっています。

(5)委員アンケートの結果



(6)まとめ

- 市民アンケートをみると、満足度は「鉄道、バスの利用しやすさ」で低い傾向にあり、重要度は、特に「鉄道、バスの利用しやすさ」で高くなっていることから、この分野での施策が大切と考えられます。
- 小中学生アンケートをみると、「自動車の量や排気ガスの量の少なさ」が重要であると答える割合が比較的高い傾向にあります。
- 事業者アンケートをみると、エコドライブの推進や騒音、振動などに配慮した事業活動は進められていますが、約3割の企業では事業活動における生活環境の関りがないと答えています。
- 「歩きやすさ、自転車の利用しやすさ」は小中学生アンケートをみても重要であると答えた割合が高く、委員アンケートにおいても課題であると答えた割合が一定数存在することから、歩行者自転車道の整備継続が必要と考えられます。
- また、野焼き等の煙害や公共交通の不便さ、空き家等の管理状況等も課題として挙げられます。

5. 協働の推進・環境学習分野

(1) これまでに環境基本計画に基づいて市が取り組んできた内容

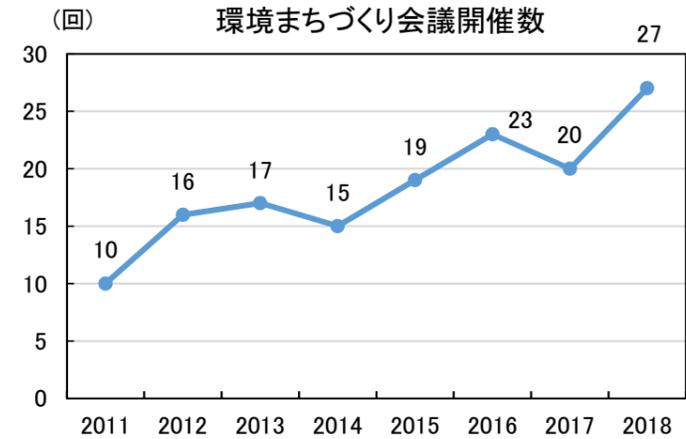
【市民・事業者・行政等の意識醸成・普及啓発の推進】

- 環境まちづくり会議の開催
- 環境に関する講演会・イベントの開催
- 環境に関する広報等、情報発信の充実
- 啓発活動、指導助言による生活環境保全

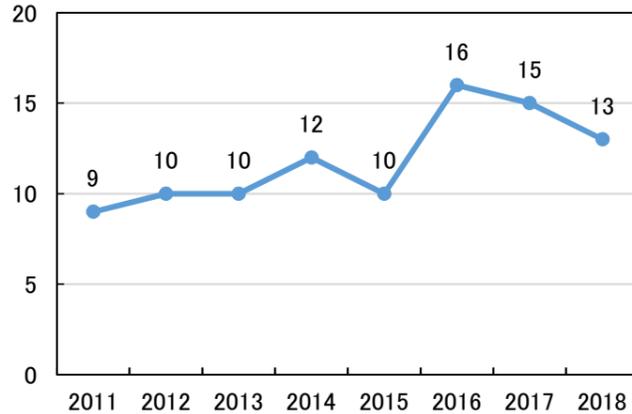
【環境学習の推進】

- 学校教育における環境教育の充実
- 市による環境出前講座の実施
- 各ライフステージに応じた環境学習の展開

① 環境まちづくり会議、講演会、イベント等開催数

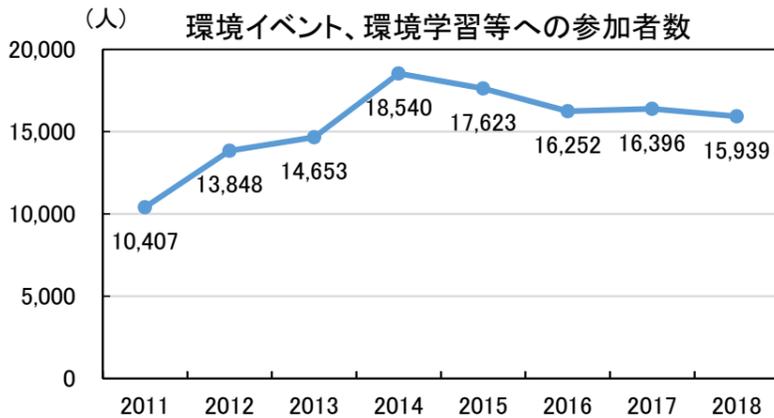


(回) 環境に関する講演会、イベント等開催数



- 環境まちづくり会議開催回数は2011年以降増加傾向にあります。
- 環境に関する講演会、イベント等の開催回数は2016年までは増加傾向にありましたが、2017年からは減傾向にあります。

② 環境イベント、環境学習等への参加者数



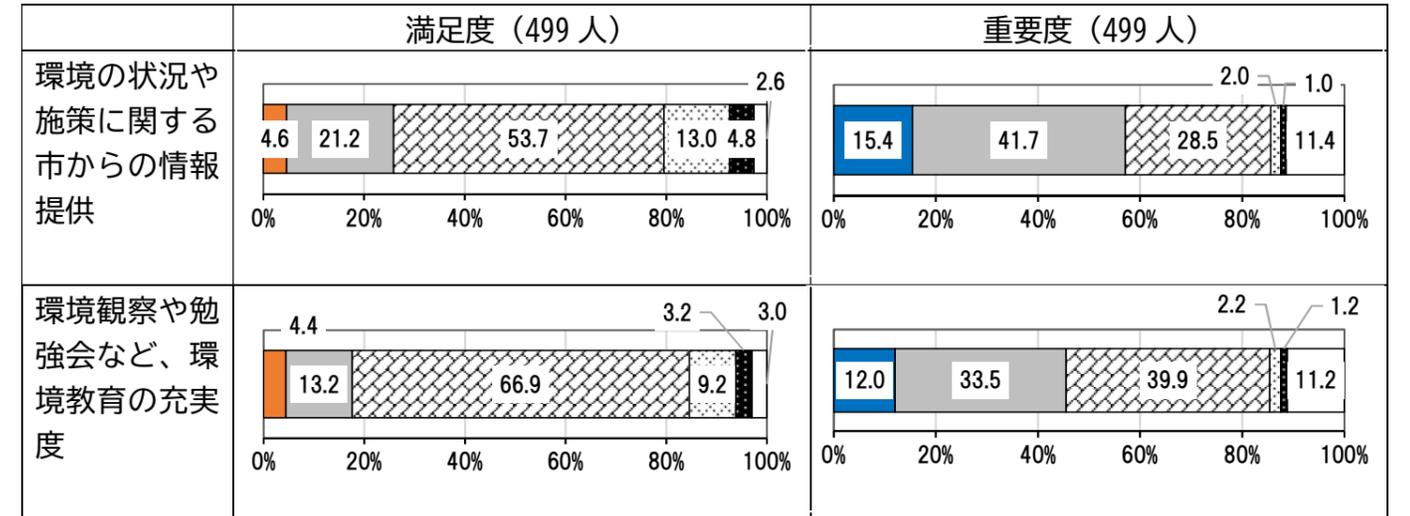
- 環境イベント、環境学習等の参加者数は、2014年までは増加傾向にありましたが、以降は減少傾向にあります。

(2) 市民アンケートの結果

【設問】あなたは、現在お住まいの周辺環境についてどのように感じですか。また、将来望ましい環境にとってどの程度重要だと思いますか。項目ごとに、あなたのお考えに最も近いものの満足度、重要度それぞれ1つずつ選んで番号に○印をつけてください。

【結果】

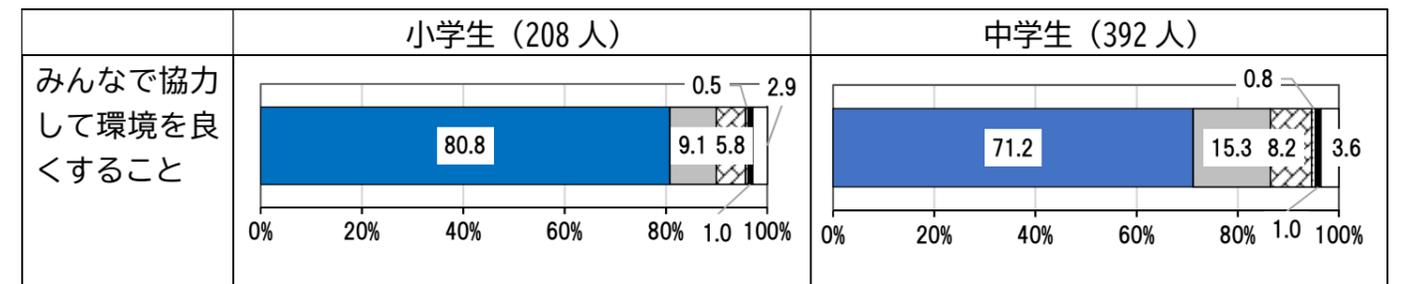
- 満足 ■ やや満足 どちらとも言えない ■ 非常に重要 ■ 重要 どちらとも言えない
 やや不満 ■ 不満 無回答 あまり重要ではない ■ 重要ではない 無回答



- 満足度は、どちらの項目においても低い傾向にあり、「どちらとも言えない」の割合が高い傾向にあります。
- 重要度は「環境の状況や施策に関する市からの情報提供」で高い傾向にあります。

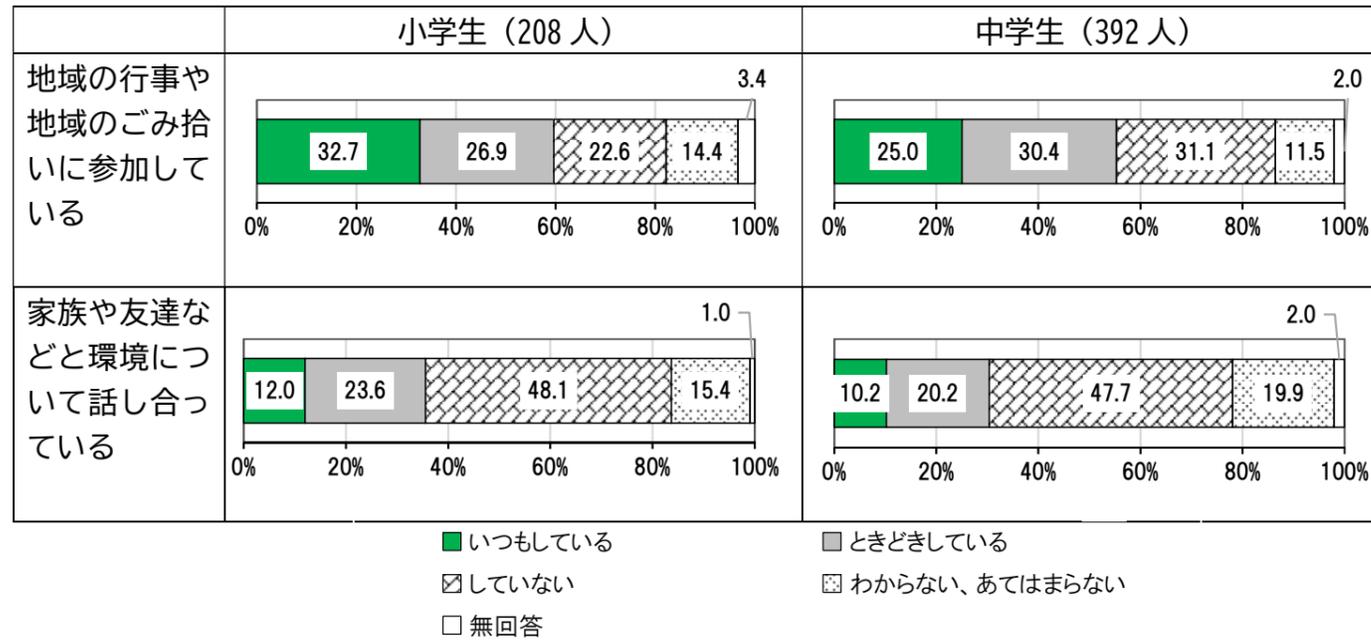
(3) 小中学生アンケートの結果

【設問】家や学校のまわりの環境について、これからどのようなことが大切だと思いますか。①～③の項目すべてについて、それぞれ1つ選んで、番号に○をつけてください。



- 重要 ■ やや重要 どちらとも言えない
 あまり重要ではない ■ 重要ではない 無回答

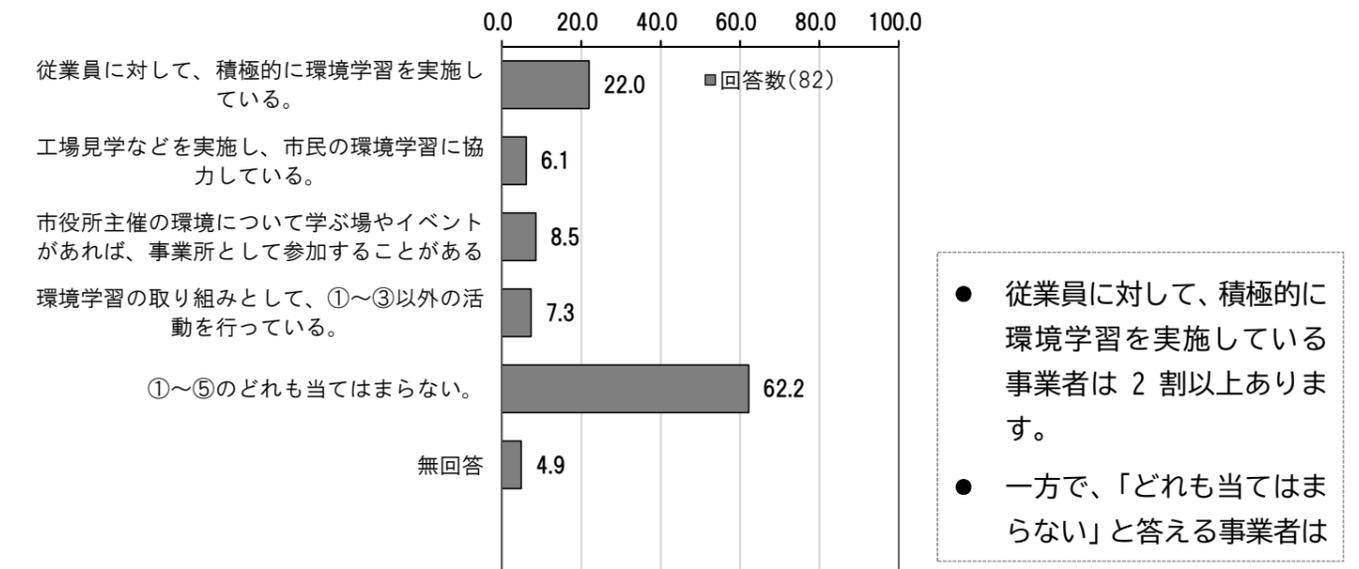
【設 問】あなたは日常生活でどんなことに取り組んでいますか。①～⑤の項目すべてについて、それぞれ1つ選んで、番号に○をつけてください。



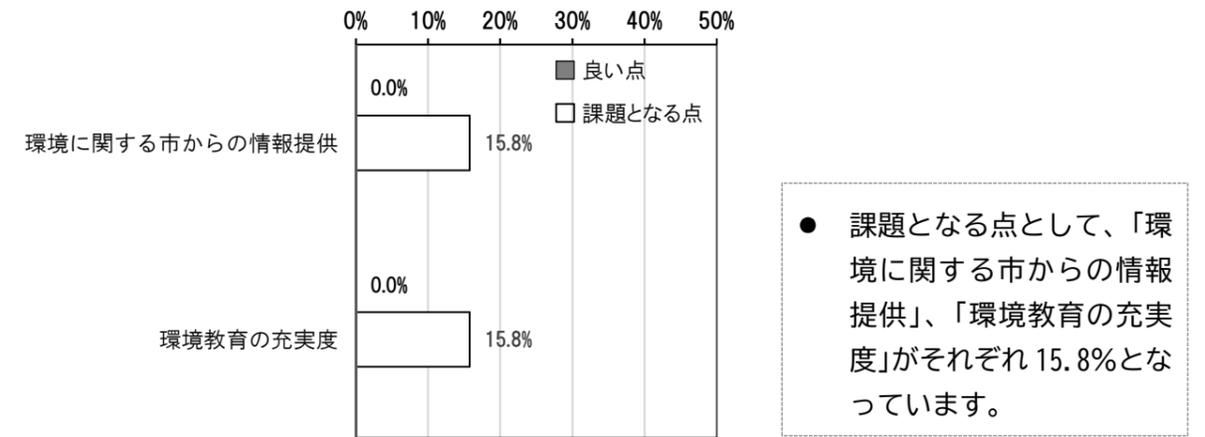
- 「みんなで環境を良くすること」は、小学生・中学生ともに重要度が高い傾向にあります。
- 日常生活で取り組んでいることについて、「地域の行事や地域のごみ拾いに参加している」割合は高く、「家族や友達などと環境について話し合っている」割合は低い傾向にあります。

(4)事業者アンケートの結果

【設 問】環境学習について、おたずねします。当てはまる番号を○で囲んでください。
(複数選択可)



(5)委員アンケートの結果



(6)まとめ

- 市の統計によると、環境に関する講演会やイベントの開催回数は減少傾向になっています。また、環境イベント、環境学習等の参加者数も減少しています。
- アンケート結果からは、美地域の清掃や美化、緑化運動などの市民の取組は進んでおり、小中学生にも浸透していることが分かります。ただし、小学生の取組意識よりも中学生の取組意識のほうが低い傾向にあります。
- 委員アンケートでも、環境に関する情報提供や、環境教育は充実していないとの指摘があります。また、地域での清掃活動等への参加者は多いが、環境イベント等の参加者は偏っているとの指摘もあります。
- 事業者アンケートでは、環境学習等を実施していない事業者は約6割となっています。
- 委員アンケートにみられる今後の課題や取組の指摘事項として、市民ひとりひとりが環境について関心を持てるような環境の現状についての周知や、学校教育での環境問題の意識付けなどがあります。